

2010年1月から本紙教育面で「あつし塾長の『子のやる気 親の気づき』というコラムを83回連載した。この教育」の本格的なスタートだった。子どもたちの学校生活は完全週休2日制になり、休日が増え、教科書もその分薄くなった。

私見創見 Thursday

「私見創見」でも、読者の皆さまと情報を共有しながら、子育て・教育をテーマに考えたい。

さて、02年4月から学校現場には週5日制が導入された。それが、いわゆる「ゆとり教育」の本格的なスタートだった。子どもたちの学校生活は完全週休2日制になり、休日が増え、教科書もその分薄くなった。

ゆとり教育世代



畑山 篤

志学塾塾長

はたやま・あつし 1960年八戸市生まれ。明治学院大卒。志学塾を運営しながら全国各地で講演。「勉強部活」を提唱、放課後学習支援などに関する全国学習塾協会理事。

漠然と感じる「異文化」

そして、「塾はゆとり教育の最前線ですよ。何か秘策はありませんか」と尋ねられた。私はしばらく考えてから、「手ごわいです」とだけ

「いや、確かに確認するやうなところは一部で、全てをやり遂げているというケースがある。そして、「うそはついていません」と平気で言い、「途中でやめたのは面倒になっただけです」「やりませんでした」と言っていると、自分が嫌な気分になる発言が続く。

「ゆとり教育世代」の子どもたちは、成長を通じて、「ゆとり教育」を肌身に感じてきた。世間では、最近の子どもたちは無気力・無関心だと言われるが、その言葉だけでは「ゆとり教育世代」の子どもたちの実態はうまく伝わらない。例えば、塾の教室ではあいさつもできる。笑顔もある。つぶやきや不良はない。いわゆる悪い子は姿を消し、良い子が大半になった。

「ゆとり教育世代」の子どもたちは、親の生活には、「ゆとり」が生まれた。そして、親の世代以上に自分の夢を目指す。しかし、「面倒です」と言う多くの子どもたちは、やるべきことを先送りしているように見える。

両陛下フィリピン訪問

キリノ大統領の戦犯恩赦

両国関係変えた「許し」

【マニラ共同】天皇、皇后両陛下が27日、太平洋戦争で犠牲になったフィリピンの人々への慰霊を果した。今では世界で最も親日的な国の一つと言われるフィリピンだが、戦後の両国は加害者と被害者として最悪の状態からスタート。その関係を変えたきっかけは、自らも妻や子を奪われながら、許しの態度を示した一人の大統領の決断だった。

【本紙に本記】

▽平和の青

首都マニラでフィリピン人の戦没者をまつる「無名戦士の墓」。歴代天皇で初めて足を運んだ天皇陛下は、戦後70年を経た27日午後、ひつぎを模した慰霊碑に花輪をささげ、ゆっくりと頭を下げた。日米の戦闘に巻き込まれた犠牲者に思いをはせ、過ぎた黙礼の時間。半旗に掲げられたフィリピン国旗も、戦後70年

現在、フィリピンにとっ て、日本は最大の貿易相手だ。キリノ氏は当時から、両国関係が将来的に大切になると認識し、東西冷戦という世界情勢の中で、西側陣営内の不和を早期に解消すべき必要性にも迫られていた。

「憎しみの連鎖を絶つ」。キリノ氏が戦犯全員に恩赦を与えたのは戦後10年もたない53年7月。当時を記憶するフィリピン国民的作家シヨニール・ホセさん(91)は言う。「国民は大統領も遺族であると知っていたからこそ決断を受け入れた」

そのときから約半世紀。自らも戦争を体験し、歴史に学ぶ必要性を訴え続けてきた陛下。海外では、サイパン、パラオで果たした「慰霊の旅」に続き、フィリピンでもあらためて平和への強い思いを示した。29日には日本側の「比島戦没者の碑」でも慰霊に臨む。無名戦士の墓で陛下の姿を自撃したフィリピン軍関係者は「長年待ち望んだ訪問だ」と聞いていたが、戦争の歴史を学び、心の準備を積み重ねてきたのだと感じた。フィリピン人の犠牲者のことを忘れず、高齢にもかかわらず両国の友好関係のために尽くす姿は本当に素晴らしいと話した。



首都マニラでフィリピン人の戦没者をまつる「無名戦士の墓」。歴代天皇で初めて足を運んだ天皇陛下は、戦後70年を経た27日午後、ひつぎを模した慰霊碑に花輪をささげ、ゆっくりと頭を下げた。日米の戦闘に巻き込まれた犠牲者に思いをはせ、過ぎた黙礼の時間。半旗に掲げられたフィリピン国旗も、戦後70年

人工知能プロ棋士に勝利

人工知能プロ棋士に勝利